

vol.32

2017年3月

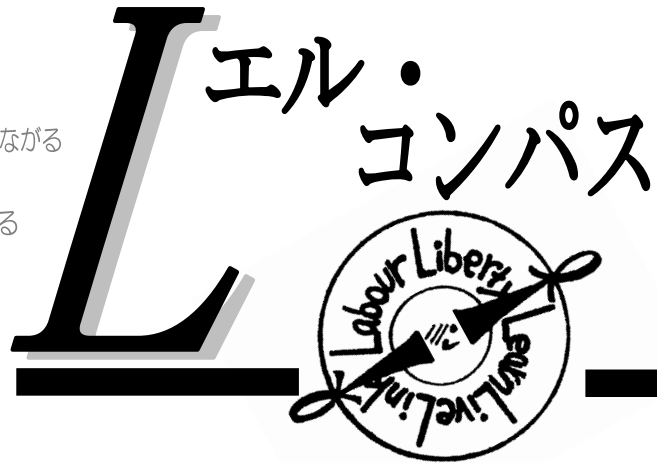
Link つながる

Live 生きる

Learn 学ぶ

Labour 労働

Liberty 自由



宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

宝塚市立男女共同参画センター



巻頭エッセイ「映画『この世界の片隅に』を観て」	1
寄稿「家族の中の女性の貧困—若年層調査のデータから—」	2
講座案内（4月～6月）	4
相談のご案内など	6
情報図書	7
指定管理者11年目へのご挨拶	8

## 映画『この世界の片隅に』を観て

単館系の映画としては異例のヒットを記録している、長編アニメーション『この世界の片隅に』を観た。

この史代による同名の漫画を原作に、片淵須直が脚本・監督を務めたもので、女性漫画家が戦争時の女性の生活を描いたのを男性監督が演出した男女共同参画映画である。

絵を描くのが好きな、どこかのんびりした少女・浦和すずは、18歳で周囲に言われるまま、生まれ育った広島市江波から見知らぬ土地・呉へとお嫁に行く。夫のため、家族のために食事をつくり、井戸へ水汲みに行き、竈で炊事をする。戦禍は激しくなる一方でも、粗末な食材を工夫して食卓を彩り、着物を仕立て直してモンペをこしらえる。

この映画の特徴は、戦時の物語ではあるが、題材はすずを中心とした市井の人々の生活であることと、形式がアニメーションであることだが、戦争・原爆を実写で描けば、生々しく恐怖心を与え目を背ける現実をアニメには色彩があり、実写と同じ動きをつけていける効果がある。

メディアが伝えた戦争を辿るだけでは見えてこない、当時を生きた人々の日常生活の実像を淡々と描く作風がとても好ましい。

戦争は得体の知れないものではなく、普通の生活にいきなり入り込んで、女性の戦いは、さすがに言う「なんでも使って暮らし続けること」であり、敗戦後も続いたのだ。

原作者のこうのは、インタビューに答えて「世の中が『風化しそうなものを語り継がねば』という気分よりも、むしろ新たな戦争に近づいている気がします。ともすれば戦争をやむなしと考える時、想像を巡らせるきっかけぐらいになるかもしれません。あの時代について語り合う糸口になってもらえば・・・」と語っている。

老若男女、特に若い世代の人たちに観てもらいたい一作である。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長

田上時子

# 家族の中の女性の貧困 -若年層調査のデータから-

格差や貧困は90年代の後半から社会問題として浮上し、リーマンショックを経て本格的に議論されるようになりましたが、女性の貧困については近年ようやく注目されるようになってきました。男女格差は今に始まったことではなく、女性が稼ぎ手となる母子世帯の貧困は80年代から深刻な問題だったのです。世界的にも女性の貧困問題は、女性が稼ぎ手である世帯の増加によって注目されてきました。生活の水準は世帯単位で把握され、世帯の稼ぎ手が女性であることは世帯が貧困に陥る主要な要因と言えます。

一方、男性が主たる稼ぎ手である<sup>1</sup>「標準世帯」に属する女性についてはあまり関心を持たれませんでした。結婚している女性は男性に扶養されているとみなされ、貧困問題の当事者として焦点が当たることはほとんどないと言えます。

<sup>1</sup>標準世帯：主婦と子ども2人の4人で構成される世帯のうち、有業者が世帯主1人だけの世帯に限定したものである（総務省統計局HPより）

それは政府のフリーター概念図に端的に示されています。フリーターは15歳から34歳の非正規雇用者ですが、女性だけが未婚者に限られ、既婚女性は「主婦」と定義されています。概念図は政策課題と対象を特定するものであり、フリーター概念図が示しているのは、未だに女性は結婚すれば男性に扶養してもらえるとする暗黙の前提であり、男性が稼ぎ手である（べき）、という信念なのです。

私の研究グループ<sup>2</sup>は、2014年4～5月に、フリーター年齢の若年層の中でもフリーター率の高い学歴高卒以下の若者を対象にオンラインのアンケート調査を行い、男女各1000件の回答を得ました。政府概念図から排除されている既婚女性も対象としています。まだ分析と考察の途上ですが、今までにわかったことをご紹介しますと思います。

<sup>2</sup>科学研究費補助金基盤研究C「経済危機下における若年女性層の労働と生活に関する調査研究 研究代表：伊田久美子・大阪府立大学」による調査

## ●既婚女性の生活実態

私たちは世帯内で暮らす女性の現状分析を目的のひとつとしています。「標準世帯」とされる関係からはずれた女性の貧困リスクは当然高くなりますが、「標準世帯」の中の女性については、まだまだ関心が低いと言えます。しかし世帯内の女性の状況と世帯外における状況は連続したものです。たとえば主に世帯内で無償労働を担っている女性は、様々な事情によって世帯から出るや否や貧困に陥る可能性が高いのです。

政府が「主婦」と定義する既婚女性の生活実態はどうでしょうか。私たちの調査では、既婚女性の20%強のパートナーが正規雇用者ではないという結果でした。たしかに正規雇用者が多いですが、この20%はなかったことにはできない数字であり、またこれらの方々のパートナーの収入は正規雇用者に比べて低い水準です。この女性たちの中でも、自分自身の年収が単身者生活保護水準に満たない人たちは、満たす人たちに比べて、自尊感情の水準が低いという統計結果が出ています。1人でも生きて行ける条件を満たしているか否かは、たとえ世帯収入が十分であったとしても、女性の生活の質を左右するのです。

## ●パラサイト・シングルは今

世帯内にとどまる女性は既婚女性だけではありません。親同居の未婚者の生活の質も問題です。かつて「パラサイト・シングル」ということばが、社会で話題となったことがあります。親元に住む若者は生活を親に「パラサイト（寄生）」したまま自らの収入を海外旅行やブランド品購入のような「贅沢」に費やすことのできる高い生活水準を享受しているため、生活水準の下がる結婚を望まないとされ、それが晩婚化、少子化の原因と言われたりもしてきました。その後も親同居の若者は増える一方です。20歳から34歳の若者では2000年の1200万人をピークに減少に転じているように見えますが、この減少はこの年齢階層の人口減によるもので、割合は対人口比45%～50%で横ばいのままです。そして35歳以上の未婚の親同居者も増え続けています。これらの若者の失業率や非正規率の高さを無視することはできません。優雅な寄生生活どころか、経済的困難から親元を離れることができないという見方が不況とともに主流化してきました。

興味深いことに「パラサイト・シングル」はその典型として女性に焦点が当てられていますが、経済的困難による親同居者は男性に関心が向けられる傾向があ

# 伊田久美子

大阪府立大学人間社会システム科学研究科教授 女性学研究センター主任

ります。ここにも稼ぎ手役割が男性に期待され、女性は被扶養者、という暗黙の前提が透けて見えます。

## ●経済的困難による親同居

私たちのデータでは未婚で両親が健在な者の約7割が親と同居しています。男性が68.5%、女性が70.2%と、わずかに女性の比率が高いですが、大きな差はありません。雇用形態別では無職、非正規雇用者、正規雇用者の順に親同居率が高く、この傾向は男女共通です。男性だけでなく女性もまた経済的に不利な状況の者ほど親元で暮らしています。しかし正規雇用者については男性よりむしろ女性の方が独居率は高くなっています。

親同居者の生活実態を独居者と比較すると、男女とも共通に、親同居者の方が生活の質がよくないことがわかりました。年収は低く、ストレスは高く、健康状態は悪いと感じる傾向が親同居者に多く、また暴力を振るわれる恐れやふるう怖れが、いずれも親同居者で高くなっています。また親同居者は独居者にくらべて両親に気をつかい、自分の意見が通らないと感じる傾向が強く、両親との関係において比較的立場が弱いことがわかりました。こうした全般的傾向は男女に共通で、女性が親に甘えて贅沢に暮らしているというイメージとはまったく異なる実情がわかります。

## ●生活の質が低い、親同居の女性

さらに親同居者の生活実態の男女比較をしてみると、男性に比べて女性がさらに生活の質がよくないことがわかりました。男性に比べると女性は年収が低く、ストレスは高く、健康状態は悪いと感じる傾向が強く、自尊感情は低く、将来の生活不安は高い、という結果になっています。「パラサイト・シングル」がイメージしていた優雅な独身女性からはかけ離れた実態です。

男性が自立できないことは問題視されても、既婚女性が夫に扶養される安泰な存在とみなされがちであるのと同様に、若年の未婚女性が健康な親元で暮らすことは、とくに問題ないとされる傾向があります。親元であれ夫であれ、家族の中にいる女性の生存は守られているはずである、守られるべきである、という固定観念が、女性の生活実態を見えなくしてしまいます。しかし家族の中が必ずしも安全安心な場所とは言えないことはドメスティック・バイオレンスや虐待などの事例が示すとおりです。私たちの調査データも男女とも親同居者の生活の質が独居者よりも低いことを示しています。さらに親同居者の中でも男性に比べて女性の生活の質が低いこともわかりました。家族の外の貧困リスクは家族の中と連続しています。自立して生きていける条件があるからこそ人間は、女性も男性も、対等な関係が作れるし、困ったときには助け合えるのではないのでしょうか。

## ●女性が自立して生きていける社会に

結局標準とされる家族の外部の貧困に比べて家族の中の女性が見えにくいことが、女性の貧困の見えにくさであると言えるでしょう。女性が必要としているのは、女性自身がひとりでも、また子どもなどの被扶養者をかかえても生きて行ける社会的条件であり、それを土台としてこそ良好な家族、男性との関係が実現可能になることを、今回の調査のデータから、あらためて確信しています。貧困に陥った人の救済はさしせまった政策課題ですが、人間が性別にかかわらず尊重され、対等な関係を作って行ける社会を実現するための制度設計こそが、女性の貧困問題の根本的解決につながる道であると思うのです。

### 伊田久美子さん プロフィール

新潟県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

京都大学助手、大阪女子大学助教授、教授を経て、2005年より現職。専門はイタリア・フェミニズム研究、家事労働論、労働とジェンダー研究。イタリアの家事労働論の運動史的研究とともに、日本における若年女性の隠れた貧困を可視化する労働生活実態の調査研究に取り組んでいる。共編著『フェミニスト・ポリティクスの新展開：ケア・労働・グローバルイゼーション』（2007年、明石書店）、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（2013年、ミネルヴァ書房） 訳書 G.F.ダラ・コスタ『愛の労働』（1991年、インパクト出版会）他。

## 講座案内

4月～6月

講座はすべて  
参加費・保育は無料です  
申込み電話番号：0797-86-4006

## 親子育ちセミナー

4月3日（月）から受付

5月13日（土曜日） 13:30～15:30

## 新1・2年生のための CAPワークショップ

CAPとは、子どもがいじめや虐待などの暴力から自分を守るためのプログラムです。ロールプレイやワークショップを通して、すべての子どもたちが持つ生きる権利（安心・自信・自由）を学びます。

## ●対象

こどもワークショップ：小学校新1・2年生 20人（子どもが参加される場合は、保護者の参加が必要）  
おとなワークショップ：おとな 30人（保護者・子どもに関わる大人の方等）

## ●保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

※NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西スタッフが担当します。

## 親子育ちセミナー

4月3日（月）から受付 4月21日（金）17時締切・抽選

5月16日～6月13日（火曜日）全5回 10:00～12:00

## スター・ペアレンティング ～たたくず 甘やかさず 子育てする方法～

スター・ペアレンティングとは、親も自分を大切にしながら、たたくず、甘やかさず、そして楽しみながら子育てするための方法です。ちょっと視点を変えて、子どもと接する具体的な方法を身につけると、子どもにとって、親にとっても居心地のよい関係を築くことが出来ます。

●講師：NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西  
田上時子さん・スタッフ●対象：子育て中の方、子どもに関わるおとな30人  
（全回参加できる方優先）※定員を超えた場合は抽選●保育：15人（1歳～就学前まで）  
要予約

5月16日	概論・スター・ペアレンティングとは？
5月23日	問題を避ける・良い行動を見つける
5月30日	感情を認める
6月6日	限度を設ける
6月13日	新しいスキルを教える・まとめ

## 情報リテラシー

5月1日（月）から受付

6月3日（土曜日） 10:00～12:00

コミックの中の女性たち  
「プリンセスメゾン」から考える ～女性がひとりで家を買うこと～

コミック「プリンセスメゾン」には、いつか「自分次第で手の届く目標」であるマンションを買うため物件めぐりをする居酒屋勤務の主人公を中心に、年代や環境の違う女性たちが登場します。コミックを読み解きながら、女性と住まい、そして生き方について考えてみます。（※情報リテラシーとは情報を読み解き活用する能力のことです）

## ●講師：春田美砂子さん 宅地建物取引士 2級ファイナンシャルプランニング技能士 オフィス VER 代表

## ●対象：テーマに関心のある女性 20人

## ●保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

## 講座案内

4月～6月

講座はすべて  
参加費・保育は無料です  
申込み電話番号：0797-86-4006

男女共同参画基礎講座

5月1日（月）から受付

6月10日～7月1日（土曜日） 全4回 10:00～12:00

## 明日につなぐ 男女共同参画スタディーズ 2017

男女の格差が大きくなる背景には、どんな問題があるのか、「女性の活躍推進」に必要なものは何なのか。ジェンダーの視点で一緒に考えてみませんか？

6月10日	「ジェンダー学への招待」 ～‘家族’から考える～ 田間泰子さん 大阪府立大学 人間社会システム科学研究科 教授
6月17日	「女性と貧困」 ～格差社会の中で～ 中野冬美さん 女性のための街かど相談室「ここ・からサロン」共同代表
6月24日	「二極化する女性の労働」 ～『女性活躍推進』のキーワードとは～ 横山由紀子さん 兵庫県立大学 経営学部 教授
7月1日	「ジェンダー平等とエンパワメント」 ～誰もが生きやすい社会をめざして～ 井山里美さん NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 事務局次長

- 対象：テーマに関心のある方 40人
- 保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

## 男女共同参画週間（6月23日～29日）

毎年6月23日から29日までの1週間は「男女共同参画週間」です。男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、政府や地方公共団体だけでなく、一人ひとりの取組が必要です。私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか。

エンパワメント講座

5月15日（月）から受付

6月27日～7月18日（火曜日） 全4回 10:00～12:00

## 女性のためのコミュニケーションスキル

上手な聞き手、話し手になることで、コミュニケーションはスムーズに。この講座では実践的なワークショップを通して、相手を尊重しつつ、自分の考えや要求を伝える方法を学びます。職場や地域、家庭など様々な場所で役立ててみませんか。

6月27日	リスニング・ブロックについて
7月4日	よい聞き方・よい話し方
7月11日	感情リテラシー
7月18日	ストレス・マネージメント

- 講師：田上時子さん NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長
- 対象：テーマに関心のある女性 20人（原則として全回参加できる方優先）
- 保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順



# パープルリボンカフェ

皆でおしゃべりしながら、パープルリボンを作りませんか。  
 リボンにお好みの飾りをつけるだけ。フレンドシップキルトづくりもあります。  
 お茶を飲みながら、「わいわい & チクチク」しましょう

4/24	6/26	8/28	10/23
------	------	------	-------

いずれも月曜日 10:00~12:00

場 所：宝塚市立男女共同参画センター エルズルーム  
 持ち物：裁縫道具（針・糸など）  
 ※センターでも用意しています。  
 申込み：不要 ※一時保育はありません。  
 お子さん連れの参加もOKです。



パープルリボンは、女性に対する暴力をなくす運動のシンボルです。  
 女性の約3人に1人は、配偶者から暴力の被害を受けたことがあり、約10人に1人は、何度も暴力を受けています。

## 女性のための相談室

予約電話番号：0797-86-4006

電話相談	毎週 月・火・木・金曜日 10:00~12:00/13:00~16:00 直通電話：0797-86-3488
面接相談	第2・4水曜日 第1・3・5土曜日 10:00~12:50 ※要予約・相談時間は 1人50分
法律相談	第1土曜日（原則） 14:00~17:00 < 市民対象 > ※要予約・相談時間は 1人45分 原則1人1回限り
起業相談	第1・3水曜日 10:00~12:00 < 市民優先 > ※要予約・相談時間は 1人60分
チャレンジ相談	第1水曜日 11:00~13:50 ※要予約・相談時間は 1人50分

※電話相談以外はすべて保育あり（要予約） 年末年始及び祝日の全相談業務はありません。

## 情報・図書コーナー

女性問題の解決や男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信します。  
 宝塚市外の方も借りられます。図書貸出は、[ お一人3冊・2週間 ]です。  
 図書の貸し出しやビデオ・DVD の視聴には「図書利用者カード」が必要です。初めて情報・図書コーナーをご利用される方は、名前と住所が確認できるものをお持ちください。すぐにカードを発行します。

### 情報は力です！

必要としている情報と出会うことは、あなたの可能性を発見します。  
 具体的な情報を得ることで、どうしたらいいか自分で考え、決めることができます。  
 自分の必要な情報を見つけて自分自身の力にしませんか。





# 情報図書

# 図書の紹介

春が近づくと、「何かを始めたい」「新しいことにチャレンジしたい」と思う人が多いのではないのでしょうか。学び、仕事、ボランティアなどの社会参加…。そんな事を考えている人にお勧めの図書を紹介します。

	<p>●<b>研究するって面白い！—科学者になった 11 人の物語</b>                  伊藤由佳理 岩波書店（2016/10/21）</p> <p>この本に登場するのは、数学、医学、化学、薬学、生物学など理系の専門分野で活躍する女性科学者 11 人。理系の研究者と言っても、現在に至るまでの道は十人十色で一人ひとりが異なる人生を歩んできています。もともと研究者を目指していた人ばかりではなく、文系だった人もいます。そんな人たちが、どのように進路を選び、研究者になったかという話や、現在の仕事の内容について書かれています。時に悩み、回り道をしながらもまい進していく姿に、元気や生きるヒントをもらえます。これからの進路を考える中高生の人たちに読んでほしい 1 冊です。</p>
	<p>●<b>「私らしく」働くこと ~自分らしく生きる「仕事のカタチ」のつくり方~</b>                  一田慶子 マイナビ（2015/7/16）</p> <p>「自分に自信がないから、失敗したって当たり前。プライドがないから間違えたって平気」と笑う有名な生地専門店のオーナーとなった女性は、主婦からのスタートです。人生の後半で仕事の第 2 ステージを見つけた女性は、「どんな仕事でもやり方によって面白くなる」といい、老いることさえも好奇心の対象にしています。他にも「いい仕事」の「いい」は自分で決めていいと、仕事と家事と育児を機嫌よく両立する人などが登場し、仕事に漠然とした不安を抱える人、これからの働き方を模索したい人などにとって、生き生きと働くためのヒントが詰まっています。</p>
	<p>●<b>字を書く女 中年書道再入門</b>                  酒井順子 芸術新聞社（2016/6/28）</p> <p>著者が実際に 2 年にわたって書道の稽古を体験してまとめたエッセイで、筆を持つ楽しさ、写経の魅力などが語られています。著者と書道の先生（大東文化大学書道学科の河内教授）の対談で、字の好き嫌いについてとか、書道の先生の“字と人間性や品性”についての考察は「なるほど」と思います。スマートフォンの登場で、手で文字を書く機会がますます減っている昨今ですが、宛名書きくらいはきれいに書けるようになりたいものです。また王羲之や顔真卿、空海、藤原行成など、能筆の書が取り上げられ、改めて書道芸術の奥深さ、多彩さを知ることができます。</p>
	<p>●<b>PTA をけっこうラクにたのしくする本</b>                  大塚玲子 太郎次郎エディタス（2014/6/1）</p> <p>PTA に関心をもつ人は、だんだんと増えているようです。育児に主体的な父親たち、地域活動に参加したいと考える人たちなど。でも大半の人は、今の PTA には関わりたくないというのが本音でしょう。そこでこの本は PTA を今よりラクに楽しくするための具体的なアイデアが紹介されています。PTA の行事や活動を見直すためにアンケートをとった事例、仕事を分担する工夫、会議をコンパクトにする工夫、予算や会費のことなど、個々の活動を支える小さな工夫から、しくみをぱっきり変える大改革まで、実現のためのコツがわかります。</p>

## 指定管理者11年目へのご挨拶

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西は、前身である有限会社 ビデオドック（設立 1990 年）をさらに発展させるものとして、「女性と子どものエンパワメント（内なる力を引き出す）」を目的に、2000 年に設立されました。

2007 年（平成 19 年）に宝塚市立男女共同参画センター（通称：センターエル）の指定管理者となってから、今年で 10 年になりますが、2017 年（平成 29 年）度から次の 5 年間、引き続きセンターエルの指定管理者をさせていただくことになりました。

この 10 年間、少子高齢化社会の進行や雇用状況の変化など、女性を取巻く社会環境は大きく変化してきました。DV、非正規雇用、シングルマザーなど、女性が抱える課題も多様化しているなか、センターエルの指定管理者として、さまざまな困難を抱えた女性の支援や相談事業、情報提供、文化活動、啓発事業などに取り組んでいます。

また、センターエルは駅から近いという利便性から老若男女の市民の皆さんに施設を利用いただいています。

これからも、センターエルの設置目的である、男女共同参画社会の実現に向けて、職員一同、心を合わせて貢献しますこととお誓い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

今後とも、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西  
理事長 田上時子

## センター事業の5つの柱

個人が抱える悩みや問題は、個人の問題ではなく社会の問題へつながっているという視点で、自分で問題を解決したり、自分の生き方を決めたり、かけがえのない自分を大切にするなど、本来もっているさまざまな力が発揮できるように、そしてすべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができるように、5つの柱で事業を展開しています。

学習・交流

相談

施設管理事業

情報

市民活動支援

### 宝塚市立男女共同参画センター・エル

宝塚市指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

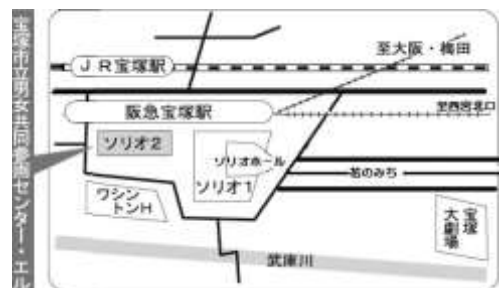
開館時間：月曜日～土曜日（9:00～21:00）

日曜日・祝日（9:00～17:00）

休館日：毎月第2日曜日・年末年始

〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL：0797-86-4006 FAX：0797-83-2424



メール：elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp  
ホームページ：http://www.takarazuka-ell.jp/